



# スクーグスチルコゴーデンを 発見してください



**森の礼拝堂**はスクーグスチルコゴーデンに完成した最初の、そして最小の礼拝堂です。グンナル・アスプルンドにより設計され、1920年に完成しました。

森の火葬場および信仰の礼拝堂、希望の礼拝堂、聖十字架の礼拝堂はグンナル・アスプルンドの設計によるもので1940年に完成しました。施設にはフレキシブルで実用的な機能主義が明確に反映されています。

> さらに詳しく/リンク



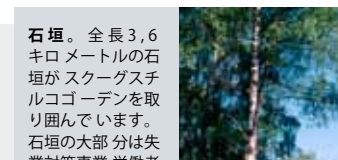
森の礼拝堂はスクーグスチルコゴーデンに完成した最初の、そして最小の礼拝堂です。グンナル・アスプルンドにより設計され、1920年に完成しました。

> さらに詳しく/リンク




**ビジターセンター**は1923年に完成し、当時は墓地管理職員およびサービス用建物でした。建物は1998年にビジターセンターおよびインフォメーションセンターとして、またカフェテリアおよび展示会場として利用する目的で改修工事が行われました。

> さらに詳しく/リンク




**石垣**。全長3,6キロメートルの石垣がスクーグスチルコゴーデンを取り囲んでいます。石垣の大部分は失業対策事業労働者たちにより築かれました。

> さらに詳しく/リンク




**墓地**。スクーグスチルコゴーデンの中心は墓石ではなく、あくまでも自然が中心です。そのため、墓地は主に森林地区の中に設けられ、墓石は低く簡素なものです。

> さらに詳しく/リンク




**復活の礼拝堂**はシーグルド・レーヴェレンツの設計により1925年に完成しました。礼拝堂には多くの詳細に至るまでを考慮した古典風神殿建築様式を取り入れています。

> さらに詳しく/リンク



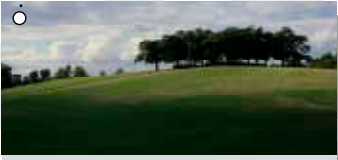
**正面入口**。入口の造形は菩提樹が二重に植えられたソッケンヴェーゲンの並木道と入口へと連なる石垣から始まっています。入口を入ると訪問者は丁寧に削られた切り石で大きく半円状に設けられた前庭に遭遇します。

> さらに詳しく/リンク



**花崗岩の十字架**は1939年にアスプルンドにより設計され、匿名家の経済支援により建造されました。この十字架は信仰のシンボルというよりはむしろ「生-死-生」という生命循環のシンボルとして考えられています。

> さらに詳しく/リンク



**楡の高台**。楡の高台の冥想の丘へは長い階段を上がり到達することができます。階段の踏み段は高く上がるほど長くなっています。これは昇段を楽にするための配慮からです。

> さらに詳しく/リンク



**七井戸の小道**。888メートルの距離がある優美な七井戸の小道は、復活の礼拝堂での別れの儀式へと向かう弔問客達の道として考案されました。

> さらに詳しく/リンク